

~~~~~  
研究ノート  
~~~~~

## 生活文化と民族文化の親子間継承——在日コリアン二世のライフストーリー・インタビューから

猿 橋 順 子\*

### 1. はじめに

本論は在日コリアン二世のライフストーリーの中で、語り手が親および養育者から何かを受け継ぎ、あるいは受け継がなかったと語るのかに注目して整理することを目的とする。在日コリアンに限らず、移民の世代間継承をめぐる研究では、民族的なもの・ことの継承に関心が集まりがちである。本研究でも、インタビュー参加者を募る段階で、在日コリアンであることは研究者と参加者の双方に意識されている。しかし、個人が来し方を語る時、在日コリアンの民族文化が常に意識されているわけではない。それは前景化されたり後景化されたり、強調されたり脱文脈化されたりする。

家庭は民族文化継承の重要かつ基本的な社会単位とされる一方で、移民の家庭内における良好な世代間関係は、若者世代のアイデンティティのためにも、高齢世代の情緒的安定のためにも重要であることが指摘されている (cf. Levitt, Guacci & Weber 1992)。ただし、世代間関係の質は把握や測定が難しい。Bengston & Robert (1991) は、世代間関係を見る上で、愛着 (affectual)、関連性 (associational)、合意 (consensual)、機能 (functional)、規範 (normative)、構造面 (structural) といった複数の視点から見る必要があるとしている。それぞれを簡単に説明する。

---

\* 青山学院大学国際政治経済学部教授

Bengston & Robert (1991)によると、愛着面のつながりとは、愛情、親近感、互恵性のような肯定的な感情に関連するものである。関連性とは家族が接触する頻度と様式である。合意とは価値観、態度、信念に賛同する程度である。機能面とは相互支援の程度に関係する。規範的とは家族内の役割や義務にどれだけ関与するかといった面である。最後の構造面とは世代間関係に影響する環境要因で、地理的な距離や、婚姻、健康状態などがこれに含まれる。

これらは相互に関連し合って家庭内メンバーの関係を形作っている (Bengston & Robert 1991) わけだが、とりわけ、移民は文化的価値観の共有と合意 (consensual inter-generational solidarity) が、メンバー間の関係により重要な影響を及ぼすという (Phinney, Ong & Madden 2000)。このことから移民の文化継承を見ていく上では、民族文化的な何が継承されたかだけでなく、それがどのように伝えられたのか、家族メンバー間の関係も視野に入れながら見ていくことが重要であると言える。

そこで、本論はまず民族文化的なもの・ことに限定せず、語り手が親から受け継いだものと受け継がなかったものとして語る生活文化に広く注目する。語り手は、親から何を、どのような意味を帯びて継承したと認識しているのか。それらはいつ、どのような場面で顕在化するものとして語られるのか。受け継がなかったものについてはどうか。これらについて語り手の主観的な意味世界に接近することを試みる。

在日コリアン研究において、すでに世代論研究が多く蓄積され、三世、四世を対象とした研究も進んでいるなか、なぜ今、二世を対象とした基礎的研究を展開するのか、という疑問もあろう。民族的アイデンティティを含め、集団的・社会的アイデンティティも世代認識も談話の中で常に変化する (Hall 1996, Arber & Attias-Donfut 2000, Chapman 2008)。在日コリアン二世は家族世代の最年長世代となりつつある。実際、インタビュー参加者の親の多くがすでに他界していたが、「最近になって親のことをよく思い出すようになった」とか、「今になって親の気持ちが分かる」といった親世代との関係や出来事について再解釈する語りが少なくなかった。本論は、在日二世が、年月を重ねて振り返る親

子間の生活文化継承の意味世界に接近しようとするものである。

## 2. 調査概要

インタビューは、2014年9月から2017年にかけて実施した。参加者は生年順に表1の通りである。参加者同士が家族関係にある者もいる。3. 趙光渉さんは1. 趙琴祚さんの弟、7. 宋宏明さんと8. 高正美さんは夫婦である。ほとんどの調査参加者の両親が、すでに他界したり寝たきりの状態にあり、インタビュー実施時に健在だったのは13. 洪蓮順さんの母親のみである。全員子どもがおり、洪蓮順さん以外は孫がいる。インタビューは事前および当日に調査の趣旨を説明し、参加の意思を確認した。場所は参加者の自宅や職場など、彼らの生活圏に接近することをこころがけた。

インタビューは各人の来し方について、なるべく自由に語ってもらった。歴史的証言としての意味よりも、各人の主観的意味世界に接近することを重視し

表1 調査参加者一覧

	名前(仮名)	生年	性別	親の世代	居住地
1	趙琴祚	1930	女	両親一世	兵庫
2	余徳子	1936	女	両親一世	大阪→福岡→大阪
3	趙光渉	1940	男	両親一世	兵庫
4	襄秀一	1944	男	両親一世	東京→神奈川
5	李希淑	1949	女	両親一世	大阪
6	成花子	1949	女	両親一世	埼玉→神奈川
7	宋宏明	1951	男	父一世, 母日本人	愛媛→東京→山口→愛媛
8	高正美	1951	女	両親一世	山口→東京→山口→愛媛
9	金民愛	1951	女	父一世, 母日本人	愛媛→大阪→京都→愛媛
10	黄玲玉	1953	女	両親一世	大阪
11	鄭真樹	1957	女	母一世, 父二世	大阪
12	趙幸姫	1957	女	父一世, 母二世	兵庫→神奈川
13	洪蓮順	1960	女	両親一世	大阪